

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400174		
法人名	博愛長寿苑美濃里		
事業所名	あったかホーム I・II		
所在地	岐阜県不破郡垂井町宮代1153-2		
自己評価作成日	平成27年10月25日	評価結果市町村受理日	平成27年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2172400174-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あったかホームは、併設型のグループホームであり、ケアハウス・デイサービス・高齢者向け優良賃貸住宅が有り、季節の夏祭りや運動会等行事を合同で実施している。ボランティアの来訪も多く利用者は歌・踊り・演奏等を楽しみにされている。又週に2回の転倒予防体操やエアロビでADLの低下を予防するアクティビティを行なっている。家族会を年4回実施し家族間の情報交換や交流を図っている。グループホームの夕食作りやおやつ作りには、畑で作った野菜を使って料理をする等家庭的な雰囲気でも過ごせる環境を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、高台に位置するこのホームで、四季折々の景色を楽しみながら、広い庭を散歩したり、野菜や花を育て、自然を楽しむ日常生活を過ごしている。また、併設の施設との合同行事も多く、各種ボランティアの協力を得て、様々なレクリエーションを行なうなど、他施設の利用者や地域住民と交流している。さらに、年4回、家族会を開催し、家族間の情報交換や交流を行なっている。管理者、職員は、日常的に家族が訪問しやすい雰囲気づくりに努め、地域や家族との連携を密にし、利用者に家庭的な暮らしを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で福祉複合施設としてグループホームがあり、「健康でいきがいあふれる地域作り」の理念を掲げている。職員は名札の裏に理念を書いた物を常に挟んで持ち共通意識を持ち実践している。	ホームの理念である自立・安心・尊厳ある生活を目指し、利用者の持てる能力が発揮できるよう努めている。また、そのためには、どうすれば良いかを考え、準備して待つ介護、利用者の気持ちを考える介護の意義を全職員で共有し、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の敬老会や地域のイベントの参加。法人内 行事の夏祭り等への参加。併設デイサービス利用者・ケアハウス入居者との交流が定期的に行われている。また喫茶店や美容院、買い物に外出している。	地区内の敬老会や行事に参加している。法人主催の夏祭りには、多くの子供を含めた地域住民の参加がある。併設デイサービスの手品や、演奏会などの催しには、他施設の入居者と共に参加し、定期的な交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに入居者の作品を掲示したり、パネルを掲げ認知症の支援や生活を理解して頂ける様紹介している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、事業所の取り組み内容や課題等の話し合いが持たれている。また、その意見はホーム内で共有し、質の向上へと結びつけている。	行政、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、利用者代表などの出席で、隔月に開催され、現状や、活動報告、問題点などを話し合っている。夏祭りなどの行事後にも、意見交換をして、次回への課題として、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、市町村役場の担当者からの情報提供や意見交換を実施している。	運営推進会議を通じて、介護保険の現状や法改正などの情報提供を受けている。困難事例はあまりないが、地域住民の高齢者情報を把握し、電話等でも連携を密にし、意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的で開催し、勉強会では身体拘束に繋がる具体的な行為について学び身体拘束をしないケアを実践している。利用者の安全を守るため家族の理解のもと、玄関のみテンキー対応とし、日中は窓は開錠して自由に庭や各階に行き来できるようにしている。	身体拘束委員会を定期的で開催し、拘束について正しく理解し、身体拘束のみならず、言葉の拘束についても学び、拘束のないケアを実践している。日中は、館内・外(庭)は、自由に行き来できるようになっており、利用者は閉塞感のない環境での暮らしができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の勉強会を年に1回カンファレンスで開催している。又その資料にて、職員全員が理解し、虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホームあったかホームⅠ・Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回カンファレンスにて権利擁護に関する勉強会とその資料で職員全員が学び、外部研修でも個々に学び理解を深め支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の説明、重要事項の説明はもちろんのこと、退居時も含めた話し合いの場を持って理解のうえ、契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には訪問時・家族会時・遠方の方には手紙で呼びかけ、意見・要望を気軽に聞き出せる雰囲気作りには留意している。また玄関入口には無記名記述式で気軽に意見を書いて入れるボックスを設置している。	職員全員で、家族が意見や要望を出しやすい雰囲気づくりや声かけに努め、信頼関係を深めている。行事開催時や訪問時に、家族の意見や要望を聴き、遠方の家族には手紙などを通じて聞き取り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体カンファレンスの他、ユニット内カンファレンスを開催し、職員間で意見や提案が出せるような雰囲気作りには努めている。また管理者に直接意見や提案が言える環境にある。又日頃からコミュニケーションを図るように心掛けている。	管理者は、日頃から、職員の意見や気づきを言い出しやすい雰囲気づくりに心がけている。新人への個別指導も、管理者と共に、全職員で暖かく見守り、コミュニケーションを図りながら、尋ねやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のない勤務シフト調整を行っている。年2回の人事考課を実施し、職員の向上心とやりがいとなっている。管理者は職員の体調やストレスを考慮し、やりがいや向上心を持って無理なく働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT制度にて指導を行い、介護者教育にて段階的な研修を実施している。外部研修案内も回覧し情報を提供して参加を促している。個々の経験や力量も確認して勤務調整を行い、キャリアアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人が老人福祉施設協議会に加入している。研修等に参加した際同業者との情報交換を行っている。また研修参加の場で得た他施設からの情報を参考にしてサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報を元に個々のキーワードを把握して信頼して頂ける関係作りを心がけている。本人の要望を聞き不安や困っていることを傾聴し信頼関係を保ち安心して生活出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活状況やご家族の要望・不安等アセスメント用紙を使用して聞き少しでも不安の軽減になるよう担当職員はじめ全職員との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いや身体的状況を確認し出来る限り必要としている支援を見極めサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活一般では生活の知恵や調理のコツを教えて頂き経験して来た事を披露する場を作り職員から一方的に提供するだけでは無い環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にはご本人の居室でお茶を飲んで頂きながら家族と過ごして頂いている。又本人の日頃の状態を報告・相談するとともに家族会等の開催により日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、本人を支えていく為の協力関係が築けるよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの行きつけの美容院や接骨院・病院・喫茶店やお墓参り、外泊・旅行など今までの生活習慣を継続している。また、知人友達親戚の方々の面会も有り今までの関係を継続している。	職員と共に、食材の買い出しに行ったり、近隣の喫茶店に出かけている。家族の支援で、墓参りや美容院、買い物にも出かけている。また、知人や友人、親戚の面会も多く、馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの入居者同士が自由な時間を過ごせるように声を掛け役割を持ってもらい共に支えあいトラブルの無い生活を送れる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居された方に面会に行く、又はご家族が顔を見せに寄って下さるなど今まで築いてきた関係を継続して行き本人や家族の支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情等からその真意を推し測ったりしている。また、ケアプランの立案ではセンター方式を活用し本人の思い・生活歴等をアセスメントし立案している。	その人らしい暮らしを継続できるように、日常の会話や表情から思いを汲み取ったり、ホームにいる犬に接する時の、何気ない表情などを見逃さないよう心がけている。また、家族からの書面で、生活歴情報や新たな提案を受けたりしている。	入居者の中には、10年以上の利用者もあり、高齢化に伴い、できないことも増えている。常にアセスメントを通じて、プランを見直し、マンネリ化することなく、その人らしい利用者本位の支援に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者と馴染みの関係を築きながら利用者の過去の暮らしぶりや価値観等小さな事柄でも情報を伝えてもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を引き出し出来る限り自分で出来る事は行って頂き、出来ないことや出来なくなってきた事は職員や入居者の皆さんと一緒に行って頂けるように援助し、職員は申し送りを確実にを行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	看護師・管理栄養士・理学療法士など他職種と連携を図り、モニタリングを行ない現状に即した介護計画を見直して3ヶ月毎に更新している。	介護計画は、家族に詳細な説明の上、同意を得て、作成している。職員、専門職の意見、家族の要望を反映して作成し、3か月ごとにモニタリングを行い、再度アセスメントし、利用者の状態変化に応じて、プランの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカフェで現状の介護計画に本人の状態・希望が反映されているか職員間で検討を行い、問題が発生したら直ぐに解決策を立案し本人の現状に合った介護計画を見直し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や理美容等事業所以外でのサービスを活用することもできる。理学療法士からレクリエーションや日常生活についてアドバイスを受けることもでき、本人・家族の状況に応じたニーズに対応できるよう心がけている。		

岐阜県 グループホームあったかホーム I・II

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣市町村からのボランティアが月に数回訪問があり、交流の機会を持っている。また、個人や家族の希望に応じ、訪問理美容・歯科往診を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診・通院は個人と家族の希望を尊重し、往診や施設の送迎にて受診など対応している。また複数の医療機関と密に連携している。	本人と家族の希望により、従前からのかかりつけ医への受診が家族の対応で行われている。協力医の往診も月2回ある。体調の変化があった場合、協力医と連携し、看護師による24時間体制の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により看護師を配置し24時間体制で適切な指示を受け入居者の身体状況の変化や体調管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人の母体が病院の為に安心して入院治療が出来る。又入院中は面会に行き、MSWを始め病院職員と家族と回復状況等情報交換しながら、退院支援を行っている。他病院に入院の場合はご家族から情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族と話し合い、同法人の特別養護老人ホームへの申し込みをもらっている。また、医療依存度が高くなった時点での転居も理解してもらっている。	入居時に、医療的治療が必要と判断された時点で、移転となることを説明し、本人、家族の同意を得ている。その際には、病院や他施設と連携を図りながら、本人、家族が納得し、最善の選択ができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの操作方法・救急救命法について年に1回勉強会を開催している。緊急・急変時の対応も業務マニュアルとして、文章化されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力も得て、年2回(昼・夜)の防災訓練に職員も入居者も参加している。また運営推進委員会で防災訓練実施報告を行ない地域の役員に伝えている。年に1回カンファレンスで防災訓練についての勉強会を実施し学んでいる。	年2回の防災訓練は、消防署立ち合いの下、防災訓練マニュアルを整え、利用者も参加して実施している。訓練後は、運営推進会議で、地域の役員にも報告をしている。食料や水など、災害時に十分な備蓄も確保できている。	地域密着型の機能を活かし、地域の防災訓練にも積極的に参加し、また、ホームの訓練にも、地域住民の協力が得られるような働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人の気持ちを考えさりげないケアと声掛けにより尊厳を大切に心掛けている。	常に、利用者の尊厳と権利を守ることを、職員全員で意識し、余裕を持って接遇にあたっている。見守りながらも、さりげなく手助けし、利用者が必要な物は、居室内の見やすい所に置くなど、言葉に出さない思いやりの介護が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に生活の中で入居者に選択する場を設け自己決定出来るようにしている。自己選択が難しい方には生活歴等からヒントを得てアドバイスする様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながら可能な限り、本人の意思を尊重・個別ケアとなるように支援している。アセスメントをし、無理のない希望にそった生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は好みのものを着てもらっている。自分では選択が難しい方には、アセスメントにより、その人に合わせ複数より選択してもらっている。起床時や入浴後の髪型も希望を聞いて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の食事作りやおやつ作りでは畑で育てた野菜を使い入居者の希望を聞き献立を立てている。また、栄養面でのアドバイスを管理栄養士に受けている。その他の食事時には、各々の能力に合わせ、盛り付け・片付けなどを行っている。	畑で野菜を作り、献立に加えるなど、楽しい食事への支援が行われている。食事作りは、利用者の状態に合わせて、声をかけ、盛り付けや片付けなど、手伝える人が関わっている。週2回の食事作り、おやつ作りには、利用者の希望する献立やおやつを取り入れ、楽しみのあるものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が考えたバランスのとれた食事であり、食事は毎食記録し体調の変化に気をつけている。水分摂取量が少ない方は、ポカリスエットのゼリーや好みの飲み物を提供し工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔清拭の見守りと声掛けを行っている。入居者より口腔内の異常の訴えがあった時や職員が異常を発見した際は歯科医の受診や協力歯科医による歯科往診を受けるようにしている。義歯は毎晩洗浄剤で洗浄して衛生管理を行っている。		

岐阜県 グループホームあったかホームⅠ・Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の自尊心を配慮し、個々に合わせた援助を行っている。排泄失敗時にも利用者を傷つけないよう、また失禁が増えてきた場合、使用物品の検討を行いその方に合った物を使い快適に暮らせるよう配慮している。	「見るとおむつ入れの箱とはわからないよう、本人が好きな和紙を選び、職員と一緒に貼っている。また、その箱を自室の見やすい所に置いて、自分で履き替えられるようにしている。利用者の自尊心に配慮しながら、個々に合わせた細やかな支援をし、自信の回復に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為十分な水分摂取と食物繊維が多い食べ物の食事摂取を促し、散歩やレクリエーションで体操や運動をして活動するように心掛けている。それでもやむ得ない場合は医師・看護師と相談のもと暖下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日出来る体制で週3回、昼間と夜間の入浴で希望する時間に入浴して頂いている。希望されたいいつでも入浴出来る体制を整えており、入浴を拒む方に関してはアセスメントより声掛けや対応方法の工夫を行い、入浴が負担とならぬよう配慮をしている。	週3回を基本としているが、毎日入浴ができる体制であり、時間帯も、昼夜で希望に合わせている。身体状況により、機械浴が必要な利用者には、デイサービスの浴槽が利用できる。また拒否のある利用者には、家族から従前の入浴方法を聞くなどして、寛ぎの入浴となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時の生活習慣や希望を職員は把握し安眠できる環境を整えている。休息時間は体調や習慣等状況に応じてもらうように考慮している。眠剤を服用されている方等、特変事項は確実に記録するよう徹底している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服についての副作用、用法、用量の処方箋を個別にカルテに保管し、職員が内容を把握している。内服変更時は口頭と文書にて確実に申し送りを行っている。内服は投薬確認表にて二重チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりが自分らしく暮らせるよう個々に合った役割をアセスメントし活き活きと生活出来る様、活躍の場面を作っている。それらを毎日継続する事で楽しみや自信となり生きがいとなるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望も踏まえ、天候や体調に合わせて散歩やドライブ、外食、買い物等の外出を取り入れている。アセスメントや希望により個別で喫茶店へ出かける方もみえる。可能な限り外出希望には応えられよう配慮している。	広い敷地内での散歩や、近隣の喫茶店へ出かけたりして、戸外で過ごせる時間を多く持てるようにしている。また、家族の協力を得て、墓参りやドライブ、買い物等、利用者の思いに配慮した、外出支援を行なっている。	

岐阜県 グループホームあったかホームⅠ・Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解のもと自分で財布にお小遣い程度のお金を所持している方もおられる。それが本人の不安の解消と満足につながっていると思われる。買い物の際は支払いをして頂きお金を持って使う満足感を実感してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや切手は常時用意してあり何時でも書けるようにしている。年賀状や暑中見舞いは個人の能力に合わせ書いて出している。また電話時には本人と会話できるような声掛けと援助を行っている。電話をかけたい希望があれば支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南に面した広い窓とフロア中央の吹き抜け部分の天窗からの採光がホーム全体を明るくしている。リビングには水槽が設置され、広い壁には季節の行事等の壁画を飾り利用者の安らぎとなっている。また庭から花を摘み、リビングや玄関等に一緒に飾り、季節感が感じられる空間となっている。	リビングは日当たりもよく、広い窓からは、周辺の田畑や遠くの家並み、眼下を走る自動車や、数分で行き来する新幹線など、飽きの来ない景色を見ることが出来る。リビングから各居室やトイレ、浴室など、共有の設備へとつながり、全体が見渡せる居心地のいい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他の箇所にも応接セットを設置し、自由に使用できるようになっている。気のあった仲間同士が座って談話する光景が見られる。また少人数で落ち着ける空間となっているように思われる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・机・椅子・備え付けクローゼットは入居前より設置済みであるが、家具や寝具等は使い慣れたものを使用してもらっている。また、個々に家族の写真や置物・仏壇等を所持され安心できる空間となっている。	各居室には使い慣れた家具などが置かれ、お気に入りの小物や、家族の写真などが飾られている。また、利用者の手作り作品や習字などが貼ってあり、現在の生活を大切に、安心して過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には手作りの大きな文字で作った名字が飾られ分かりやすいように工夫している。トイレ前には分かり易い言葉、馴染みの言葉で表示している。。フロアーは段差なく歩行しやすい。また、個人の身体能力に合わせてベッドは使い分けている。		